

第四回合気道錬身会「全国大会」実施される。

群馬杉武館代表 杉本 久

錬身会では今年も平成23年10月8日(土)に、東京江戸川区スポーツセンターにおいて全国大会が開催された(実行委員長は群馬杉武館杉本)。

特に本年は三月に発生した東日本大震災を受けた悲運な一年であったが、一日でも早い復興を願っての大会であった。

群馬杉武館からも多くの選手代表が演武に参加したが、北毛道場の山田千尋・陸生君の兄弟が奨励賞を受賞した。

尚、大会会場には「募金箱」を設け、参加者及び見学者からの義捐金を集め、年末には東北の被災地の子供たちに支援した。

その時の模様が武道雑誌「月間秘伝」の12月号に掲載されている。

内容記事は「群馬杉武館の杉本久師範は、固めた相手から千円札を抜き取るパフォーマンスで会場を湧かせた。千円は東北支援の募金箱へ」と出ている。(右下の写真記事、上から三番目)



杉本実行委員長の開会挨拶



開会式選手一同



抜き取った千円は募金箱へ

シビアな技を紹介するプログラムであ
る。
ここで注目すべきは、各師範がそ
れぞれの演武で独自の特色を意図して、
演武を披露していたこと。たとえば
浜松道場の杉浦介師範が両手持りか
らの技のパリエーションを、三越本店
合気道部の荒牧修師範は演武冒頭で
片手取りする相手を重心の変化で居着
かせて脚す技を紹介、群馬杉武館の杉
本久師範は1000円札を使ったコミ
カルな動きを取り入れて会場中の笑ひ
を誘いながらも、合気道の奥深さを示
していくといった具合である。こ
ういった各師範の工夫は、見ている人た
ちに合気道の魅力を伝えるうえで非常
に有効であり、大会全体の印象をより
良いものにしていくはずである。
そして大会のトリを務めたのが、千
田師範による総合演武だ。千田師
範の気合の入った技が次々に披露され
ていく中、技の解説がマイクを通じて
響き渡った。
今回の全国演武大会のテーマ、「明」
にふさわしく、各演武には必ずマイク
による技や動きの解説が入る。会場に
訪れた誰もが理解しやすいようになる
べく難しい言葉を使わないといった工
夫が見られ、必ずしも言葉をこぎこ
かない人たち、たとえば参加者の父兄等
が聞いてもわかりやすかつたに違いな
い。ただし場内の立ち位置によっては
スピーカーの音聞きづらかつたのは
少々残念だった。
暖昧を産して、
より明確な合気道を
さて、今大会のテーマである「明」
に対する、千田師範の思いを改めて聞
いてみた。
「私は、なるべく塩田先生の合気道を、
正しく守っていきたく考えています。
ただ、教えの内容は変えないけれど、
教え方を明快にしていきたいという考
えはあります。これまでの合気道には、
暖昧なところがあつたと思うんです。
たとえば呼吸力とか中心力といった言
葉がそれで、そういう言い方をすると
人を傷に巻いてしまう。これは気の力
だよというところ、全部それで済んで
いかないんです」
確かに千田師範のいうとおり、気、
という暖昧だが、ある意味、便利と言
葉は、それ以上の説明を必要なもの
としてしまう恐れがある。習い人も
わからないのは自分が未熟だからだと
思い、本質を知らないまま何年も経過
してしまうだろう。
「暖昧にしていくのは簡単だと思うん
です。それに難しい言葉を使つたほう
が弊い先生のような雰囲気があります
よね(笑)。私の時代が「呼吸力とは
相手との係わり合いの中で使われる集
中力のことなんです」と、それが
教えられないんです。じゃあ、相手
との係わり合いの中つてなんかついてこ
とになります。今はそれではいけない
と思うんです。
これからは、さうだからこうできる
んだ」と、技や動きを明快にするこ
が大切です。その思いが、今年のテー
マでもある「明」という文字に表わさ
れているわけです」
千田師範は、「明」は今大会のテー
マのみならず、自身のライフワークで
もあると話す。
このテーマを実現するには、自分が
稽古をつんでいって実力を伸ばしてい
くしか方法はありません。正しい技は

練身会の短刀演武は、短刀に対する護身初級
技法のみならず、格闘技や柔道など、多種多
くの技を、一本の短刀で表現しているのが特色。
刃の扱い、また、格闘技や柔道など、多種多
種の技を、一本の短刀で表現しているのが特色。

それぞれの演武が独自の特色を意図して、演
武を披露した。千田師範は、固めた相手から千
円札を抜き取るパフォーマンスで会場を湧かせ
た。千円は東北支援の募金箱へ。

群馬杉武館の杉本久師範は、固めた相手から千
円札を抜き取るパフォーマンスで会場を湧かせ
た。千円は東北支援の募金箱へ。

二越本店合気道部の荒牧修師範は、両手持りか
らの技のパリエーションを、三越本店の演武冒頭
で披露した。